

朝夕がようよう肌寒くなってきた11月中頃、私は五台山にある県立牧野植物園にでかけました。この日は天気も良く、園内を歩き出してすぐに体が温まりました。念のためにと厚手の服を選んだことを悔やみつづ、赤く色づき始めたモミジや生き生きと黄色に咲き誇るツワブキなど手入れの行き届いた植物を眺めてリフレッシュしました。

小高い丘の広場の上で行くと、ブレイドティーのふるまいや音楽演奏などが行われており、その周りでは小さな子ども連れの家族や友人同士、外国の方、披露宴の衣装を身につけた男女などが思い思いのときを楽しそうに過ごしていました。

そこから長い坂を下りながら、なかなかいい運動になるなあと思っているとおばあさんと少年の二人組が向こうからやってきました。高校生ぐらいに見える彼はおばあさんに声をかけながら、ゆつくりとおばあさんの乗った車イスを押していました。私はその自然に寄り添う姿に感心させられたのですが、もう一

寄り添う心とバリアフリー

つづかされたことがありました。それは、バリアフリーという環境を整えることの大切さです。あらためて園内を意識して見渡すと、段差の解消のためのスロープやエレベーター、建物出入口の自動ドア、障害者用トイレや障害者、高齢者等の入場料無料化など、いろんな環境面の気配りがされていました。

もし、このようなバリアフリーが実現していなかったら・・・、あの車イスのおばあさんたちは、安心して植物を見ながら園内を回り、穏やかな時間を過ごすことができたでしょうか。そもそも園に訪れることとも思いとどまっていたかもしれない。寄り添う人の心づかいと思いやりのある環境づくりに出会い、穏やかな気持ちになれたひとときでした。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569